

新潟県中越大震災復興検証 中間報告 1/5

(復興検証、地震の概要、復興の方針)

平成26年10月14日(火)

新潟県中越大震災復興検証調査会

目次

1 復興検証について

- (1)新潟県中越大震災復興検証について 1
- (2)新潟県中越大震災復興検証の仕組み 2
- (3)新潟県中越大震災復興検証調査会委員 3
- (4)新潟県中越大震災復興検証の経緯 4

2 地震の概要

- (1)新潟県中越大震災の状況 5
- (2)新潟県中越大震災の被害状況 6

3 復興の方針

- (1)新潟県中越大震災復興ビジョン①～②(復興ビジョンの策定、内容) 7
- (2)復興ビジョンから復興計画へ 9
- (3)新潟県中越大震災復興計画の概要①～③(復興計画の策定、内容) 10

1 復興検証について

(1) 新潟県中越大震災復興検証について

【復興検証の目的】

- (1) これまでの復興の取組を総括するとともに、残された課題等について、今後の県施策への提言を行う。
- (2) 東日本大震災の復興や今後の防災に役立てることができるように、復興の経験と教訓を「新潟モデル」として発信する。

【復興検証の趣旨】

- (1) 新潟県中越大震災復興ビジョンの検証
震災から10年後(2014年)の目指すべきシナリオが実現されているかを確認
- (2) 新潟県中越大震災復興計画の検証
復興の各ステージ(復旧、再生、発展)段階において、具体的に実施された施策・事業等を整理し、復興に果たした役割と課題・成果等を検証・評価
- (3) 新潟モデル
復興や防災へ活用できる経験・教訓として、特に全国に発信することが重要と考える中越大震災に特徴的なテーマについて、とりまとめ発信する。

【復興検証スケジュール】

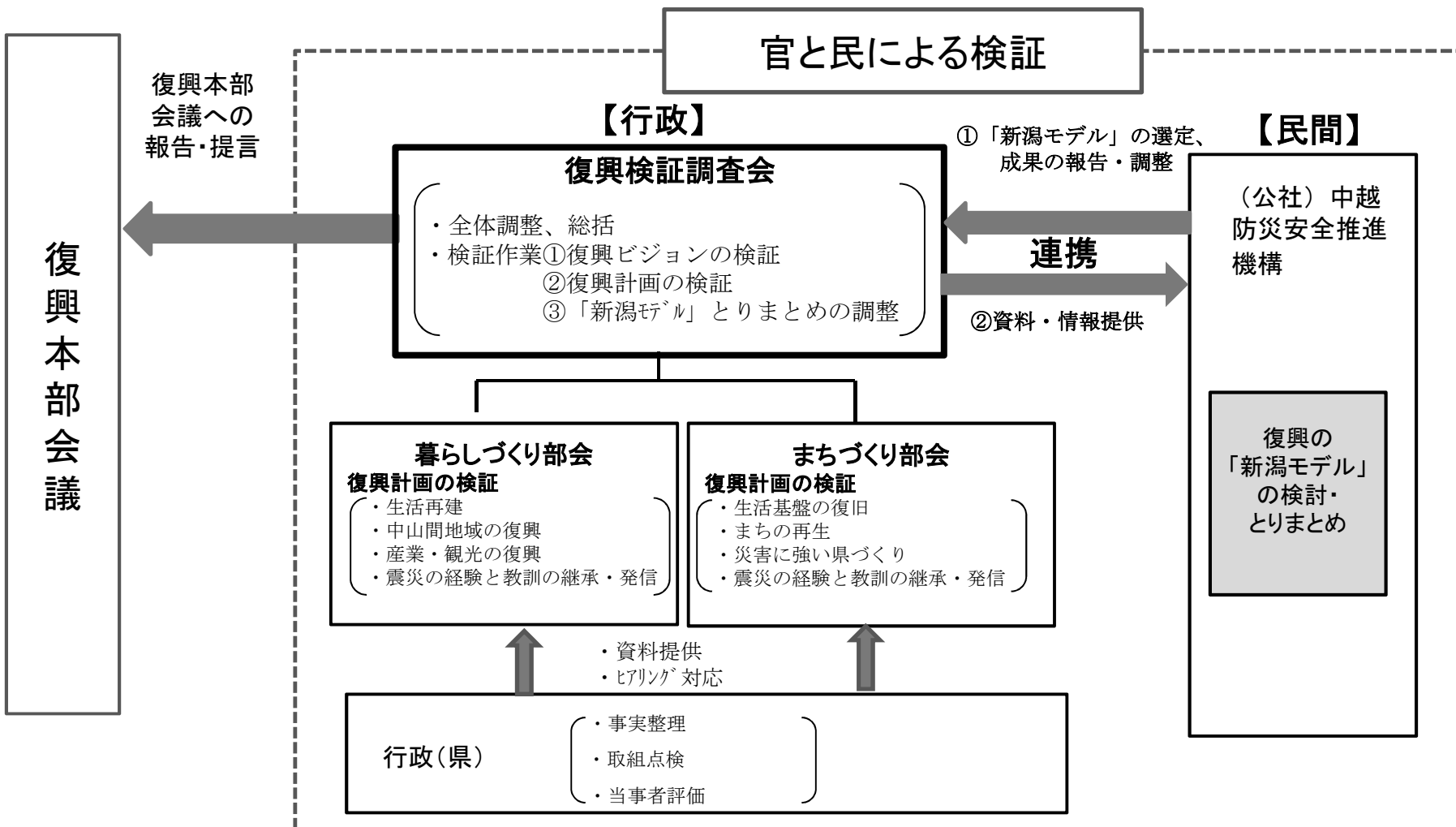
- (1) 平成26年10月 中間報告
- (2) 平成27年 3月 最終報告

【最終報告に向けて検討すべき主な事項】

・検証内容の補足・充実 ・今後の課題について引き続き議論 ・中越大震災についての総括

(2) 新潟県中越大震災復興検証の仕組み

- ・これまでの復旧・復興の取組について、官・民が連携して検証を行う。
- ・行政(県)の検証:「復興検証調査会」を設置し、新潟県中越大震災復興ビジョン及び同復興計画を基に実施した取組全般の検証を行う。
- ・民間の検証:(公社)中越防災安全推進機構が復興の「新潟モデル」について、「復興検証調査会」と連携し、検討・とりまとめを行う。



(3) 新潟県中越大震災復興検証調査会委員

顧問

河田 恵昭	阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター長 関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・教授
-------	---

復興検証調査会委員（◎は調査会会長）

◎ 丸井 英明	新潟大学災害・復興科学研究所 寄付部門流域保全研究部門特任教授
澤田 雅浩	長岡造形大学地域協創副センター長
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター特任准教授
田村 圭子	新潟大学危機管理室教授
中出 文平	長岡技術科学大学副学長
福留 邦洋	東北工業大学ライフデザイン学部准教授
牧野 秀夫	新潟大学工学部教授
三沢 眞一	新潟大学名誉教授

アドバイザー

平井 邦彦	長岡造形大学名誉教授
-------	------------

(4) 新潟県中越大震災復興検証の経緯

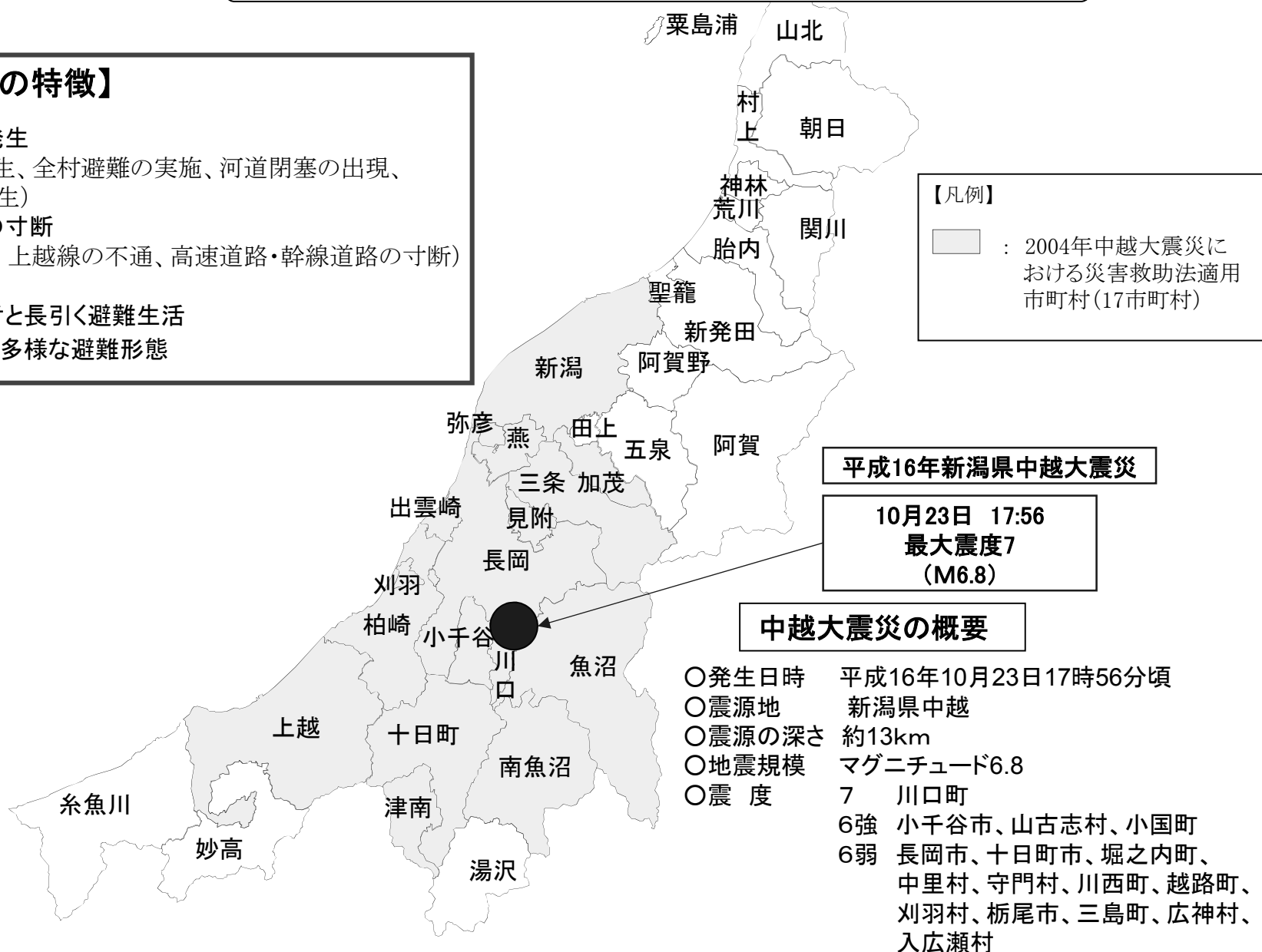
開催日	調査会・部会	内容
平成25年 9月18日	第1回復興検証調査会	(1) 復興検証調査会の設置(検証の目的、検証内容、検証スケジュール、検証スキーム)について (2) 中越大震災からの復興への取組(地震概要、復興ビジョン、復興計画の概要、復興過程における社会状況の変化)について (3) 中越大震災復興検証の進め方(復興計画の検証資料・データ整理、分析・評価の手法、新潟モデルの考え方)について
平成25年11月29日	第1回(合同)部会	(1) 報告書のまとめ方について (2) 新潟モデル(新潟モデルのテーマ選定の考え方)について (3) 復興計画検証の視点(評価の視点、事実整理のポイント)について
平成26年 3月18日	第2回まちづくり部会	(1) 報告書のまとめ方(報告書構成案、作成ポイント、復興計画検証の方針、評価・執筆担当)について (2) 新潟モデル(取りまとめの考え方、項目及び新潟モデルの定義)について
平成26年 3月24日	第2回暮らしづくり部会	(3) 復興計画の検証(骨子案、評価や発信のポイント等)について
平成26年 6月11日	第3回暮らしづくり部会	(1) 調査会体制の見直し (2) 復興検証の方針(報告書作成の留意点、復興計画の検証の範囲、検証の進め方)について (3) 復興計画の検証(素案・ポイント、評価や発信のポイント)について
平成26年 6月19日	第3回まちづくり部会	(4) 新潟モデル(取りまとめの考え方、項目)について
平成26年 8月 4日	第4回暮らしづくり部会	(1) 復興計画の検証(評価や発信、エッセンスやデータ)について (2) 復興ビジョンの検証(素案)について
平成26年 8月 5日	第4回まちづくり部会	(3) 新潟モデル(骨子案等)について (4) 報告書の全体構成について
平成26年 8月22日	第5回暮らしづくり部会	(1) 報告書の全体構成について (2) 復興ビジョンの検証(修正素案)について (3) 復興計画の検証(課題等)について
平成26年 8月28日	第5回まちづくり部会	(4) 新潟モデル(ダイヤグラム、素案等)について
平成26年 9月 8日	第6回(合同)部会	(1) 全体構成案について (2) フリーディスカッション(復興ビジョン、新潟モデル、評価と課題、総括等について)
平成26年10月 3日	第7回(合同)部会	(1) 中間報告について(中間報告日程、中間報告(案)について) (2) 課題について (3) 最終報告に向けて(内容の補足・充実、総括等について)
平成26年10月14日	第2回復興検証調査会	(1) 中間報告について (2) 課題について

2 地震の概要

(1) 新潟県中越大震災の状況

【地震・被害の特徴】

- 地盤災害の発生
(孤立集落の発生、全村避難の実施、河道閉塞の出現、宅地被害の発生)
- 高速交通網の寸断
(新幹線の脱線、上越線の不通、高速道路・幹線道路の寸断)
- 余震の頻発
- 多数の避難者と長引く避難生活
- 車中泊などの多様な避難形態



(2) 新潟県中越大震災の被害状況

		新潟県計
人的被害	死者 (人)	68
	重軽傷者 (人)	4,795
住家被害	全壊 (棟)	3,175
	半壊 (棟)	大規模半壊 : 2,167 半壊 : 11,643
	一部損壊 (棟)	104,619
	合計 (棟)	121,604
避難状況	避難所 (カ所)	最大 603
	避難者数 (人)	最大 103,178

3 復興の方針

(1) 新潟県中越大震災復興ビジョン①

専門家や地元の代表者で構成される「震災復興ビジョン策定懇話会」により、震災からの復興に向けた基本的な方針・考え方を平成17年3月1日にとりまとめたもの。

1 復興ビジョンの取りまとめ体制

○総合アドバイザー：河田恵昭 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

○取りまとめ：平井邦彦 長岡造形大学理事・教授（専門家作業グループ）

永山庸男 新潟大学経済学部長（専門家作業グループ）

（※役職は復興ビジョン策定当時のもの）

○懇話会：各分野にわたる学識経験者・有識者、被災市町村の首長 計29名

2 懇話会の開催状況

開催日	議論の内容
第1回 平成16年12月27日	農業農村、社会資本、防災を中心とした議論
第2回 平成17年 1月23日	産業、生活福祉、地域コミュニティを中心とした議論
第3回 平成17年 2月23日	原案に基づくまとめの議論

3 県民意見の募集(平成17年1年14日～平成17年2月21日)

県民総参画によるビジョンづくりを進めるため、意見募集を実施。

意見は、随時、専門家作業グループに伝達し、ビジョンづくりに反映。

(1) 新潟県中越大震災復興ビジョン②

【目指すべき目標】

10年後の2014年に新潟県中越大震災を「日本の中山間地を再生・新生させた地震」として記録する

【地域イメージ】

最素朴と最新鋭が絶妙に組み合わさり、都市・川・棚田・山が一体となって光り輝く中越

【キーワード】

「持続可能性」と「防災・安全」

【復興の柱】

「創造的復旧」：旧を踏まえつつ、その上に新たなものを生み出す

【基本方針】

- ① 情報公開によるwin-win（お互いにいい）復興
- ② 中山間地の段階的復興と魅力を生かした新産業の計画的生み出し
- ③ 産業の持続的発展のための条件整備
- ④ 安全・安心な市民自治の確立
- ⑤ 市民安全にかかわる新しい学問・研究の開拓
- ⑥ 他地域・全国・他国への貢献

【タイムスケジュール】

初期3年 … 滑走・離陸期
中期4～6年 … 上昇期
7年以降 … 快調飛行期

【復興施策への指針】

- ① 土地利用と社会資本
- ② 農業・林業
- ③ 住宅・まち・むらづくり
- ④ 産業、商業、工業（民間活力重視）
- ⑤ 防災、保健・医療・福祉、コミュニティ
- ⑥ 防災・安全に関する学問・研究（官民連携）

(2) 復興ビジョンから復興計画へ

- 「新潟県中越大震災復興ビジョン」の策定(平成17年3月)
- ↓
- 「復興ビジョン」を受け、被災者の声を踏まえ、被災自治体が復興計画を検討
(長岡市、柏崎市、小千谷市、十日町市、見附市、栃尾市、魚沼市、川口町)
- ↓
- 各市町村の復興計画骨子等を受け、市町村支援・広域的観点から県復興計画
「新潟県中越大震災復興計画」を策定(平成17年8月)

被災者

市町村

県

国

行政の
役割
分担

- 生活再建への思い
- 被災者支援・地域の復興(復興計画)
- 市町村支援・広域の復興(復興計画)
- 財政的・制度的な課題については、改善等を
国に提案・要望

(3) 新潟県中越大震災復興計画の概要①

● 震災からの復興に向けた10年計画

【計画策定の趣旨】

「新潟県中越大震災復興ビジョン」の具体化計画を、学識者の知見を取り入れながら策定
(県として取り組む行政計画)

【計画策定の経緯】

<復興に向けた第一次計画>

すべての被災者が生活再建の見通しを立てられる目標時期＝平成18年10月（降雪期前）

○市町村計画骨子を受け、市町村支援・広域的観点から県計画策定

<本格的な復興に向けた第二次計画>

本格的な復興に向けた象徴的具體事例が創出される目標時期＝平成22年10月（震災から6年）

○震災から3年が経過し、インフラ関係の復旧はほぼ完了、応急仮設住宅から全ての人が自宅や公営住宅等に移り、新たな生活

○本格的な復興のスタートラインに立ち、再生段階（震災から概ね6年）に向けた計画の見直し

<新しい日常の創出に向けた「第三次計画」>

被災地で新しい日常が創出される目標時期＝平成26年10月（震災から10年）

○震災から6年余りが経過し、被災地では過疎化・高齢化が進んでいるが、種々の行政施策や復興基金による支援もあり、復興は概ね順調に進展

○これまで生まれてきた復興の芽を育み、被災地における持続可能な地域社会を実現するため、復興の最終ステージである発展段階（震災から概ね7年以降10年まで）に向けた計画見直し

(3) 新潟県中越大震災復興計画の概要②

【計画の基本的考え方】

<復興の目標時期>

概ね10年後（平成26年／2014年）

復旧段階（3年）、再生段階（3年）、発展段階（4年）に区分してフォローアップ

<復興の柱>

[復旧段階] 創造的復旧

[再生段階] 活力に満ちた新たな持続可能性の獲得

[発展段階] 震災復興を超えた新しい日常の創出

<基本理念>

被災者の思いを基本とした復興

被災地の知恵と希望を活かした復興

「自立」と「波及」を目指した復興

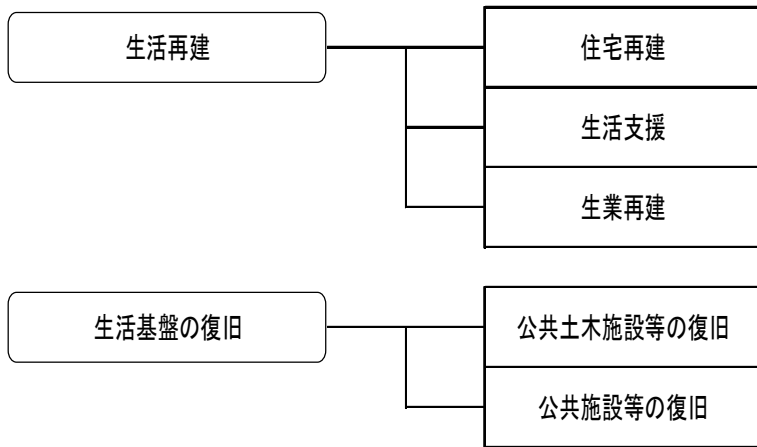
【施策展開の考え方(第三次計画)】

- | | |
|----------------------|------------------|
| ① 被災者の実情に応じた施策展開 | －被災者の確実なサポート |
| ② 民間活動と連携した施策展開 | －民間の知恵と行動力の動員 |
| ③ 県内経済の持続性に資する施策展開 | －新たな産業の生み出し |
| ④ 復興人材づくりに向けた施策展開 | －復興にかかわる多様な人材の育成 |
| ⑤ 復興事業を先導とした全県への施策展開 | －新潟県全体のリニューアルへ |
| ⑥ 全国への発信・貢献を目指した施策展開 | －復興の「新潟モデル」の実現 |

(3) 新潟県中越大震災復興計画の概要③

【計画の体系（第三次計画）】

I 生活再建支援策



II 復興施策

